



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

今日は、ようやく家に帰れます！

偉大な賛美歌作家、チャールズ・ウェスレーが書いたように：

縄目は解け去り自由の身となりぬ
立ちてぞ主イエスの御跡に従わん

ウェスレーが古典的な賛美歌「わが主を十字架の」※脚注1で描いた“美しい救いの瞬間”と、私が隔離施設から解放される場面を、同じ描写に重ねるのは多少の無理を感じますが、この小さく孤独なホテルの一室を後にして“恋しいわが家”に帰るのは、とても気分が良いです。私の妻と子供たち、そしてうまくいけば、ホテルの従業員が（私の）部屋のドアノブからビニール袋で吊るす物より良い食事が待っています。

検疫期間を経て私が得たポジティブな面は、いくつかの新しい教え（メッセージ）を備える時間が与えられたことです。主が私に与えてくださっている新しいメッセージが8つ以上あります。私たちはこのような「激動の時代」に生きていますが、神のことばには、常に知恵、安定性、希望を見出すことができます。これら新しいメッセージを皆さんに説く日を楽しみにしています。

残念ながら、その機会がいつ訪れるか私には分かりません。この渡航に伴う検疫措置が解除されるまで、私はイスラエルから外に旅することはありません。主がイスラエルの扉を開かれ、私たちが「主の真理」を国々に伝えられるようにお祈りください。

どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を私たちの上に照り輝かしてくださるように。セラそれは、あなたの道が地の上に、あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです。（詩篇67篇1～2節）

中東情勢について

シリアでは花火が打ち上げられ（※比喩的表現：実際にはミサイル）、空を照らし、地面を揺らします。昨夜イスラエルは、シリアで空爆を実施しました。数時間前の攻撃は、（目標物が国境に近かったため）ゴラン高原周辺からガリラヤ地域に至るまで音が聞こえました。これは1月に実行されたばかりの4回の防空任務に続くものです。土曜日の夜イスラエルは、シリア東部デル＝アゾール地域のアル・ブカマル付近で15回にわたる一連の空爆を始めました。イランが取り仕切るイマム・アリ空軍基地は、その“軍事的構造”とイラク／シリア国境の検問所を迂回する目的で設計された“トンネル施設群”があるために、優先爆撃目標であったと考えられています。ちょうど前日、新しいイランのミサイルが基地に搬入されました。その基地から発射すれば、ヨルダン、サウジアラビア、さらにはイスラエルまで簡単に届きます。

多くの人々は、次は核兵器の製造場所を叩くため、イスラエルは攻撃の視野をイラン本国に移すと考えています。当然のことながら、イランは軍事利用を目的とする核開発を続けています。国際原子力機関（IAEA）から漏洩した内部文書では、イランが「兵器レベル」の濃縮ウラン製造を削減する方向で調印した合意を、露骨に無視し続けていることが明らかになりました。現在イランは、2.4トンの濃縮ウランを備蓄しており、これは合意した制限値の10倍以上の量です。そして「イラン核合意」ではウランの最大濃縮レベルを



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

3. 67%に設定しましたが、不正を行う国は現在濃縮レベル 20%でウランを精製しています。時期的に、いつ頃イランが核爆弾を保有する上で不可欠な高濃縮ウランを蓄えるか、外部の見積りでは1年とする一方で、多くの人はその半分しかかからないと見込んでいます。

テロを主導した犯罪者リストに「アブ・ヤセル・アル＝イサウィ」の名前を追加してください。イラクの首相ムスタファ・アル＝ハデミ氏によると「質の高い諜報活動で、イラクの ISIS（ダーウィッシュ）過激派リーダーこと、アブ・ヤセル・アル＝イサウィを排除した」と言及。アル＝ハデミ首相は、ツイッターで次のように追記しました。「私達は、ダーウィッシュ（イスラム国）のテロリストを追うことを約束し、彼らに雷のような一撃を与えて成し遂げた。」これはイラクの ISIS（イスラム国）にとって深刻な打撃でした。

ロシア軍はシリア国境を越えて、ISIS と戦うシリア兵を支援し続けています。しかし、テロ組織は依然として強力であり、反撃を強めています。ちょうど昨日、ISIS はイランのアルバクル旅団を攻撃しました。シリアのホムス州で、複数の軍事目標に対して同時多発的に遂行されたこの作戦によって、イラン民兵らは警戒網から外れてしまい、民兵の数十人が死亡または負傷しました。

最近「敵の敵は友」という哲学が、米国、イスラエル、サウジアラビア、ヨルダン、モロッコ、アラブ首長国連邦などの国々を、テロ国家イランに対峙するため、どのように結びつけているか見てきました。しかし、その哲学は、逆サイドでも起きています。これまで、私たちは、ロシアとイランが接近するのを見てきました。今は、イランとトルコが、互いに「相棒」的な姿勢を強めています。以前トルコは、西側陣営の偉大な同盟国と見なされていた時期がありました。トルコのエルドアン大統領は、アメリカやヨーロッパと関係を築き、その繋がりを利用して国を再建しました。トルコの国力が回復したことで、エルドアンは本性を現して来ています。彼は以前よりもイスラム教の信仰に過激になっています。今、彼の目は西にはなく、北はロシアに、南はイランに向けられています。

トルコのこの政治的変化に驚く人もいるかも知れませんが、エゼキエル書の預言の読者はそうではありません。主はエゼキエルに、マゴグの地のゴグに対して宣言するようメッセージを与えました。

「メシェクとトバルの大首長であるゴグよ。今、わたしは、あなたに立ち向かう。…ペルシャとクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。ゴメルと、そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマと、そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなたとともにいる。」（エゼキエル書 38 章 3、5-6 節）

神は、このイスラエルに対する攻撃で同盟を結んでいるロシュ（ロシア）とペルシャ（イラン）に戦いを呼びかけます。トルコとはどこですか？それは、ゴメルとトガルマ。どちらもその地域の古代の名前です。改めて、2500 年前の預言者が、今、私たちがニュースサイトで読んでいるような語をしているのを目撃します。

イランのニュースの続きですが、先週金曜日にインドのニューデリーにあるイスラエル大使館の外で起きた爆発事件は、イランと非常に密接な関係があります。幸いにも負傷者はなく、大使館にも被害はありませんでした。大使館の外で爆発が起きたのはこれで2回目で、前は2012年に起き、外交官の妻とその運転手、他2人が負傷しました。ジャイシュ・ウル・ヒンドと呼ばれるテロリスト集団が今回のテロの実行犯とされ



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

ています。当然のことながら、この組織はイランと密接な関係があり、イスラエルはこのテロ行為の責任をイラン政府に負わせています。

バイデン政権がパレスチナ自治政府（PA）との関係強化を模索し続ける中、パレスチナ人は、自分たちの判断がいかなる分野でも信頼されない理由を新たに思い知らされました。世界が「国際ホロコースト記念日」を覚える数日前、パレスチナ立法評議会で第2位政党であるファタハは、アリ・ハッサン・サラメを称賛するビデオを公開しました。サラメは、1972年のミュンヘン・オリンピックで、イスラエルのオリンピック選手9名が死亡した「ブラック・セプテンバー」テロの首謀者であり、指揮官でもありました。彼はその後「神の怒り作戦」の一環としてモサドが彼を捕まえるまで、他の多くの暴力的な攻撃に関与していました。彼は1979年1月22日、その命をもって罪を償いました。しかし、このテロリストはパレスチナ人にとって英雄のままです。ファタハはFacebookの声明で、次のように書いています。「アリ・ハッサン・サラメは、ヨーロッパ全土に届く長い腕と、モサドの諜報員を狩ることができる高い知性を特徴としていた…。彼が世界のイスラエル諜報機関に対する特殊作戦（すなわち、テロ攻撃）の指揮官に任命されてからは、ヨーロッパの多くのモサド諜報員に爆発物の小包を送るなど、多くの質の高い作戦で名を馳せていました。これら「質の高い作戦」に、ミュンヘンでのオリンピック選手9人の殺害が含まれていたと考えられます。米国は、本当にこういう人々と近づきたいのでしょうか？

良いニュースとして、イスラエルとアラブ首長国連邦の関係は、ますます強くなっています。わずか5か月で、イスラエルの新しい友人との貿易は、ヨルダンとエジプトを合わせた貿易を上回りました。それは両国にとって恩恵です。

また、コソボがイスラエルと国交正常化する合意に署名したというポジティブなニュースもあります。コソボと言えば、多くの人は、'90年代後半「ユーゴスラビア戦争」の一環で恐ろしい戦争犯罪があった場所として、コソボを知っています。コソボは、2008年にセルビアからの独立を宣言し、現在は国連加盟193カ国中98カ国に認められた独立国家です。公式には世俗主義国家ですが、人口の96%がスンニ派イスラム教徒です。両国はこのように、ユダヤ教とイスラム教の国が平和に共存している一例です。

イスラエルとコソボは、近い将来、大使館を交換する予定です。ここで二重の奇跡が明らかになります。第一に、コソボ大使館が開設する場所は、エルサレムとなります。イスラム教国が大使館を聖地エルサレムに置くことを想像してみてください。バーレーンとアラブ首長国連邦は大使館を設置しましたが、こちらはテルアビブにあります。しかし、コソボはエルサレムをユダヤ人国家の真の首都として認識しています。第二の奇跡は、コソボがヨーロッパの国として、大使館を置く場所にエルサレムを選んだという事実です。これは、欧州連合（EU）の立場に断固として反対しています。コソボはこの行動によって大きなリスクを背負いました。コソボは2025年、EUに加盟する可能性がある「西バルカン6カ国」の1つとして承認されています。もし大使館をエルサレムに開けば、この加盟を危うくする蓋然性があります。

ミニストリーについて

ブラジル講演ツアーと、南アフリカ「アウェイティング・ヒズ・リターン」ツアーの実施決定期限が迫っていますので、主が私たちに知恵を与えてくださるようお祈りください。私たちは、これらの国々に行き、神



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

の御言葉で信者たちを励ましたいと強く望んでいますが、状況を踏まえると冷静に考えなければなりません。今すぐには行けなくても、それは仕方のないことだと理解しています。また、定期的に招待を受けているので、どのイベントに参加するかを見極めることができるようにお祈りください。本来であれば、1年前から予定を立てるのですが、COVIDがすべてを変えてしまいました。

何が起ころうとも、主が与えて下さる機会を、当然のこととして受け止めるつもりはありません。来月からはZoomで「地域別Q&A」を再開する予定ですので、ご期待ください。これは私が世界中の「キリストの体」と交流し、参加する私たち全員が御言葉で励まされる素晴らしい手段です。私はこのようなことをするのが大好きです。

私たちの「ヤングアダルト弟子」(YAD) ミニストリーは「The Word(御言葉)、The World(世界)、&You(あなた)」を土曜の午後12時(PST) ※日本時間日曜午前5時からライブ配信します。これは、シリーズの2回目で、トピックは「神は良いお方ですか?」です。私たちは世界中の若者たち(18～26歳)に、ぜひこの番組に参加してもらいたいと思います。さらに、YAD チームの「ヤングアダルト・ウィークリー・ミーティング」にZoomで参加することをお勧めします。これは、毎週火曜日の午前8時(PST) ※日本時間水曜午前1時からです。

私の最新刊「イスラエルと教会」(*英語版)を予約注文できることをお知らせします。今、注文すると特典付きです。詳細については、オンラインストア(*英語)にアクセスしてください。
<https://shop.beholdisrael.org/>

皆様の誠実な祈りと、寛大な財政的支援に改めて感謝いたします。私たちはミニストリーの活動範囲を広げるため、新しい方法を常に追求していますが、皆さんのパートナーシップによってそれが可能になります。引き続き宣教ミニストリーのために祈るときは、世界中の翻訳者のことも覚えてください。私達のチームには51人の翻訳者と筆記者がいて、23カ国語でビホールドイスラエルの教えを様々な言語で提供するため熱心に労しています。間もなく新しい言語が、もう1つ増えます。神の御言葉の希望を広めるために尽力している彼らですが、実は常に「霊的な攻撃」に直面しています。繰り返しになりますが、皆さんの祈りに翻訳チームへの執り成しを加えて頂けると幸いです。

今年は何かと興味深い年になるかも知れませんが、それは私たちの使命を変えるものではありません。皆さん一人一人が、気を散らすことなく歩めるように励ましたいと思います。希望を失ってははいけません。恐れの中で生きたいという誘惑に屈してはいけません。使徒パウロが言うように：

ガラテヤ人への手紙6章7～10節

思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいのちを刈り取るのです。善を行なうのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることになります。ですから、私たちは、機会のあるたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行ないましょう。

主の再臨を待ち望み、



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

アミールツアルファティ

<https://mailchi.mp/beholdisrael/amirs-weekly-roundup-july-7-22-1006357>

<NEWS>

■ネタニヤフ、アブダビで UAE の皇太子とイランについて会談する模様

2021年2月3日

イスラエル首相は来週、UAE 皇太子と待望の会談のため（ペルシャ）湾岸地域に旅行する予定。イランと米国の融和（核合意への回帰）が迫る中で、イランに対する協調姿勢が主要な議題に含まれるものと推測される。

■東アフリカで、イスラエル大使館を狙ったイランの襲撃計画が阻止される

2021年2月2日

去る1月、在アフリカの米国、UAE、イスラエル各大使館を標的とするイランの計画が未然に阻止された。先週起こった、在インドイスラエル大使館襲撃事件は、この流れでイランが関与した疑い。

■シリア東部で空爆：攻撃はイランと手を組む外人部隊を狙い、イスラエルが行ったと思われる

2021年2月1日

週末中続いた、イスラエルの関与が取りざたされるデル＝アゾール地域への空爆では、イランが支援する民兵組織が更に多く標的とされた。兵士以外の物的資産も攻撃で損害を被ったと報告されている。

■イランとトルコ、トランプ政権交代後、新たな関係作りを模索

2021年1月30日

両国は、米国の政権移行に伴う“トランプ時代”終了後の関係強化を約束。イラン外相は、今週遅くにトルコを訪れ、いくつかの問題について話し合った。トルコ外相は、バイデン政権に“トランプ時代の制裁”を撤回するよう求めている。

■インドのイスラエル大使館で、即製簡易爆弾が爆発

2021年1月29日

地元警察は、爆発は「即席爆発装置」(IED)によって引き起こされたとしている。大使館の建物自体に損傷はなく、怪我人も出なかった。インド警察は犯人を探している。



Amir Tsarfati

【ウィークリー・ニュースレター】

2021年1月29日～2月4日（日本時間2/5午前1時配信）

脚注

1. チャールズ・ウェスレー作讃美歌「And Can It Be」邦題「わが主を十字架の」：
出典日本ホーリネス教団鳩山のぞみ教会 Web サイトより
http://hatoyama-ch.life.cocan.jp/culture/20150214/Handout4_Shinseika226.pdf